

[ 成果情報名 ] アスパラガス圃場から採集したカンザワハダニの薬剤感受性の評価

[ 要約 ] 県内のアスパラガス圃場から採集したカンザワハダニの薬剤感受性は、マイトコーネフロアブルとスターマイトフロアブルでは高く、ダニサラバフロアブル、ダニコングフロアブル、アーデント水和剤およびコテツフロアブルでは圃場により差がある。

[ キーワード ] アスパラガス、ハダニ、殺ダニ剤、薬剤感受性

[ 担当 ] 長崎県農林技術開発センター・環境研究部門・病害虫研究室

[ 連絡先 ] ( 代表 ) 0957-26-3330

[ 区分 ] 施設野菜

[ 分類 ] 普及

[ 作成年度 ] 2025 年度

-----  
[ 背景・ねらい ]

近年、アスパラガス栽培ではカンザワハダニの発生が問題となっており、多発すると早期落葉を招き、光合成量の低下による翌年の収量低下へとつながる。現場では「薬剤が効きにくい」という声があがっており、薬剤感受性の低下が懸念されている。各種殺ダニ剤の防除効果の実態を把握することは、適切な薬剤ローテーションを行うことや、今後導入が期待される天敵を活用した防除体系を構築するうえでも重要である。そこで本研究では、県央および県南地域のアスパラガス圃場から採集したカンザワハダニ個体群を用い、現場でよく使われている殺ダニ剤による防除効果を評価する。

[ 成果の内容・特徴 ]

- 1 . マイトコーネフロアブルおよびスターマイトフロアブルは安定した殺虫効果を示す。
- 2 . ダニサラバフロアブル、ダニコングフロアブル、アーデント水和剤およびコテツフロアブルは殺虫効果が不安定な圃場が散見される。

[ 成果の活用面・留意点 ]

- 1 . 本結果は抽出調査 ( 6 圃場 ) の結果である。
- 2 . 本試験では、死虫率80%以上のものを効果の高い薬剤とする。
- 3 . 殺虫効果は散布履歴等の影響を受けるため圃場ごとに異なる。
- 4 . 感受性低下のリスクを低減するために作用機構の異なる薬剤とのローテーション散布に努める。
- 5 . 現在、ハダニ類を対象とした天敵を利用した防除体系の開発を進めている。本技術を併用することでより安定した防除効果が期待できる。

[ 耕種概要 ]

- 1 ) 供試虫 : カンザワハダニ
- 2 ) 反復数 : 3 反復 ( 10 頭 / 区 )
- 3 ) 処理法 : インゲン葉片に供試虫の雌成虫を 10 頭接種して、國本ら ( 2017 ) を参考にスプレーガンを用いて薬液を処理し、その後、顕微鏡下で生死を調査した。

[ 具体的データ ]

表 アスパラガスに寄生するカンザワハダニの各種薬剤に対する殺ダニ効果 (2025 年)

供試薬剤 IRACコード	処理48時間後の死虫率 (%) <sup>z)</sup>						無処理
	マイトコーネF <sup>y)</sup>	スターマイトF	ダニサラバF	ダニコングF	アーデントW	コテツF	
	1000倍 20D	2000倍 25A	1000倍 25B	2000倍 25B	1000倍 3A	2000倍 13	
諫早市貝津町	100	100	23.3	23.3	100	80.0	6.7
諫早市小野町	100	100	96.7	100	—	—	10.0
東彼杵郡川棚町	100	100	13.3	40.0	70.0	53.3	3.3
東彼杵郡東彼杵町	100	— <sup>x)</sup>	10.0	23.3	100	—	0
雲仙市愛野町	100	100	100	100	43.3	96.7	3.3
南島原市北有馬町	100	100	100	100	76.7	83.3	6.7

z) 死虫率80%未満に網掛け.

y) 剤型は略字で記載 (フロアブル=F、水和剤=W) .

x) 「—」は未実施.

[ その他 ]

研究課題名：アスパラガスの総合的病害虫管理技術および増収技術の開発

予算区分：県単

研究期間：2023～2026 年度

研究担当者：吉村友加里